

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	言語聴覚分野
学籍番号	15S3004	院生氏名	岩崎淳也
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	自閉症スペクトラム障害の社会的認知の特異性 —視線処理と動作模倣からの検討—		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格

<審査結果の要旨>

1. 主論文について

1) 研究の概要

(1) 研究の意義・目的：自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）の児童は、社会的認知に特異性を示すことが示唆されているが、その詳細は明らかにされていない。ASD児の社会的情報処理の特異性を明らかにすることは、他者と円滑なコミュニケーションをとることが出来るように指導・支援プログラムを検討するうえで重要である。本研究の目的は、視線及び他者の動作模倣の観点から、ASD児における社会的認知について検討し、その特性及び言語・コミュニケーションの発達との関連を明らかにすることである。

(2) 研究対象は、研究1、研究2とも、自閉症スペクトラム障害の診断を受けている6-9歳の児童20名（重度群10名、軽度群10名）。年齢を一致させた定型発達児（以下、TD）15名。

(3) 研究方法・結果

研究1：ASDの視線処理の特異性—新規語彙学習における視線処理の観点から

視線（社会的情報）と矢印（非社会的情報）を手がかりに新規語彙を学習する課題を、視線単独条件、視線・矢印条件の2条件で作成し実施した。視線・矢印条件においてASD両群で有意に低下した。視線・矢印条件における視線反応数と理解語彙力および社会生活能力の間に有意な相関を認めた。ASD群では社会的情報に対する選好的な処理を認めないこと、およびASDの重症度が重度になるほど社会的情報の選好的な処理が困難であることが明らかとなった。

研究2：ASDの動作模倣能力の検討

モニター画面上で玩具を用いた4個の動作を動画で提示し模倣する課題を作成し実施した。非目的模倣においてはASD両群で有意に低下した（ASD重度<ASD軽度<TD）。ASD群の非目的模倣生起数と社会生活能力に有意な相関を認めた。ASD群では非目的模倣は困難であること、ASDの重症度が重症になるほど非目的模倣が減少することなどが明らかとなった。非目的模倣の減少は社会生活能力の発達の阻害要因となることが分かった。

(4) 結果・結論：語彙獲得において、社会的情報と非社会的情報が競合した際、ASD児は社会的情報を選好的に処理することが困難であることが明らかとなった。この社会的情報への選好性の低下は、語彙や社会性の発達と関連することが分かった。また、ASD児は非目的模倣の低下が低下することが明らかとなった。他者の非目的模倣の低下は、周囲と協調的にかかわることを困難とし、社会性の発達を阻害する要因となることが分かった。

2) 研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施されており、研究方法においても倫理的配慮がなされていた。研究方法、論証、論文形式において、適切であった。

3) 知見の新規性と価値

本研究の新規性は、①語彙獲得において社会的情報（視線）と非社会的情報（矢印）が競合した際、ASDでは社会的情報を選好的に処理する能力が低下することを示した。②ASD児で非目的模倣の低下を明らかにし、非目的模倣の低下がASDの重症度と関連していることを示し、非目的模倣の困難がASDの特徴であることを明らかにした。以上よりASDの社会的に認知とその臨床応用に貢献する研究として高く評価できる。

2. 審査経過について

審査会は、初回審査では、実験方法の記載が不十分な点の指摘、「選好性」などの言葉の定義、研究結果をどのように臨床応用できるかなどについて質問があり、論文の加筆、修正を求めたところ適

切に修正された。

3. 口頭試問において適切に応答した。

4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（言語聴覚学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主 査 副 査 副 査	下泉 秀夫 城間 将江 小賀野 操
---------	-------------------	-------------------------